

お問合せ先  
OBARA GROUP株式会社  
〒242-0007 神奈川県大和市中央林間3-2-10  
TEL. 046-271-2122

適切に管理された森林からの原料を含むFSC®認証紙と環境に配慮した植物油インキを使用  
しています。



[www.obara-g.com](http://www.obara-g.com)

# OBARA-G REPORT

## 第63期 報告書

2020年10月1日………2021年9月30日

証券コード 6877

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。OBARA GROUPの2021年9月期における事業の概況等をご報告致します。

当期における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の流行により多方面の経済活動が抑制されましたが、総体的には緩やかな回復基調となりました。

我が国経済につきましては、個人消費が弱含んだものの、設備投資や生産活動が底堅く推移するなど、景気に持ち直しの動きが見られました。

そのような外部環境の下、溶接機器関連事業が、自動車メーカーの前向きな設備投資動向への対応に努め、平面研磨装置関連事業が、堅調な生産活動や設備投資が続いたエレクトロニクス関連素材への拡販活動を図ったことなどにより、当社の業績は前期を上回る結果となりました。

なお、当社は株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要政策として認識しており、当期に933,400株(自己株式を除く発行済株式総数の5.50%)の自己株式を取得するとともに、当期の配当金につきましては、2021年4月30日に公表の業績が概ね計画通りに推移したことなどから、1株当たり期末配当金を70円とし、年間配当金を110円とする案を2021年12月21日開催の定時株主総会に付議し、決議致しました。



次期も不透明な経済環境が予想されますが、当社と致しましては、引き続き成長市場への経営資源の投入を積極的に推進し、顧客ニーズを満たす製品及びサービスの提供を行うことにより、業績の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、OBARA GROUPへの倍旧のご支援を心よりお願い申し上げます。

2021年12月

取締役社長 小原 康嗣

目次	株主の皆様へ ▶01	セグメント別事業概況 ▶05	主要経営指標の推移 ▶11	会社情報 ▶16	株主メモ ▶18
	営業の概況 ▶03	トピックス ▶09	連結財務データ ▶13	株式情報 ▶17	



連結業績サマリー

(百万円)

	実績			次期(第64期)の見通し	
	前期(第62期)	当期(第63期)	前期比	期初計画	当期比
売上高	44,230	45,475	2.8%	48,000	5.6%
営業利益	6,754	7,321	8.4%	7,250	△1.0%
経常利益	7,474	8,037	7.5%	7,850	△2.3%
親会社株主に 帰属する当期純利益	5,103	5,993	17.4%	5,350	△10.7%
1株当たり配当金	110円(年間)	110円(年間)	—	110円(年間)	—

※次期(第64期)の見通しの想定為替レートは、1米ドル=114.00円を前提としております。

当期の連結業績について

当社グループと深く関わる自動車業界につきましては、世界経済の動向を受けて生産活動は総じて改善傾向が継続し、設備投資についても前向き姿勢が強まりました。一方、同じく当社グループと深く関わるエレクトロニクス業界では、先端製品の需要が好調推移する中で、半導体デバイス向け設備投資に活性化の動きも見られました。

当社グループは、このような経営環境において各市場動向に応じた拡販に努め、ローカルニーズに対応した製品投入を進めたことなどにより、当期の業績としましては、前期を上回る結果となりました。

次期の見通しについて

当社グループと深く関わる自動車業界では、部材の長納期化に加え、資源価格や通商問題などへの懸念から、車体組立設備において、堅調ながらも慎重な投資動向が予想されます。また、同じく当社グループと深く関わるエレクトロニクス業界では、デジタル化の世界的な加速を受け中長期的な設備投資意欲が高まる中、エレクトロニクス関連素材において、活発な生産活動とともに、設備投資の緩やかな回復基調が予想されます。

そのような環境下、当社グループとしましては、業績の向上に鋭意注力すべく、成長市場での販売促進を図るとともに、積極的な設備投資と研究開発を行ってまいります。

なお、当連結業績予想は、1米ドル=114.00円の為替レートを前提としています。

## セグメント別事業概況

溶接機器  
関連事業

事業紹介

溶接機器関連事業とは

自動車業界を主要マーケットとする高効率な抵抗溶接機器を製造・販売しています。

自動車が出来るまで

●溶接機器関連事業と関わる自動車の製造プロセス

車体溶接

塗装

ぎ装

完成

出荷



車体溶接の設備

OBARA GROUP が提供する溶接機器

自動車ボディは薄板鋼板で構成されるため、抵抗溶接という接合工法が採用されています。

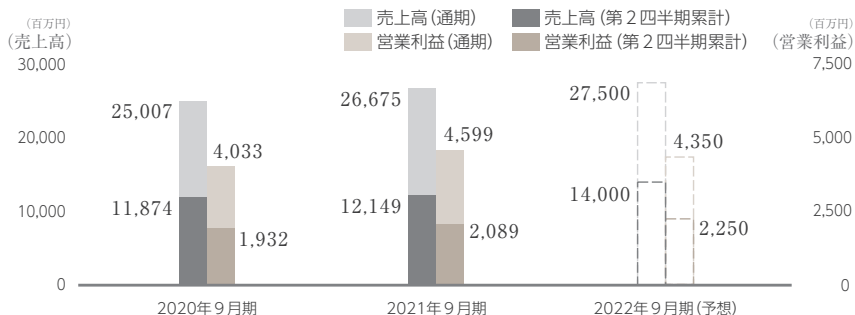
抵抗溶接は、接合ポイントに適切な加圧力と溶接電流を与える必要があります。自動車ボディの組立てには、各自動車モデル固有の立体形状に合わせ、個々の接合ポイントにカスタマイズされた溶接機器が設計・製造されます。

私たちは、国内外の自動車メーカーが行う設備増強やモデルチェンジに伴う設備更新に対し、半世紀に亘って培った経験と最先端の設計・生産技術により、最適な抵抗溶接設備を提案します。日々の生産活動に不可欠な消耗品と合わせ、自動車業界のパフォーマンス要望に応えます。

## 溶接機器関連事業



溶接ガン



(注) 売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

売上高構成比 26,675 百万円……2021年9月期 売上高

平面研磨装置関連事業

溶接機器  
関連事業

58.7%

溶接機器関連事業につきましては、取引先である自動車業界において、設備投資及び生産活動の回復傾向がアジア地域に見られました。このような環境の下、当事業として設備品及び消耗品の拡販を図ったことなどにより、業績は堅調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は266億75百万円(前期比6.7%増)、同営業利益は45億99百万円(前期比14.0%増)となりました。

## セグメント別事業概況

平面研磨装置  
関連事業

事業紹介

### 平面研磨装置関連事業とは

エレクトロニクス業界を主要マーケットとする精密研磨装置を製造・販売しています。

### エレクトロニクス製品が出来るまで

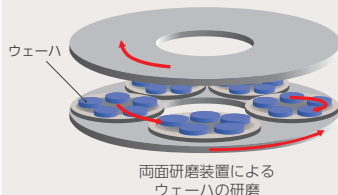
#### ●平面研磨装置関連事業と関わるエレクトロニクス製品の製造プロセス

ウェーハ製造工程  
インゴット引き上げ、切断、  
ウェーハ研磨

半導体デバイス前工程  
成膜、リソグラフィ、  
エッチング等

半導体デバイス後工程  
ダイシング、ボンディング、  
モールドイング等

エレクトロニクス製品組込  
完成した半導体デバイス(チップ)の  
エレクトロニクス製品への搭載

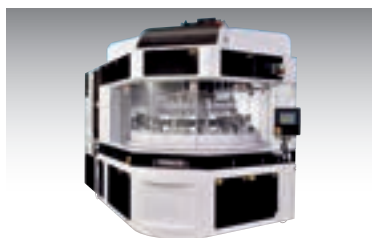


### OBARA GROUP が提供する平面研磨装置

精密加工により製造される先端エレクトロニクス製品は、材料段階で高い面精度を基準平面として要求します。ロジックチップ・メモリーなどの半導体デバイスに用いられるシリコンウェーハ、通信・光デバイス基板、ハードディスク基板など、多様なエレクトロニクス素材の面精度の形成に、ダメージのない微細加工が可能な、遊離砥粒研磨装置が活躍しています。

現代社会を支える各種エレクトロニクス素材の期待水準に、私たちは、ナノオーダー対応の遊離砥粒研磨装置を中心とした精密装置ラインナップで応えます。また、信頼性の高い量産プロセスの確立に必要な、スラリー・研磨パッドなどの消耗副資材も開発・販売しています。

## 平面研磨装置関連事業



両面研磨装置

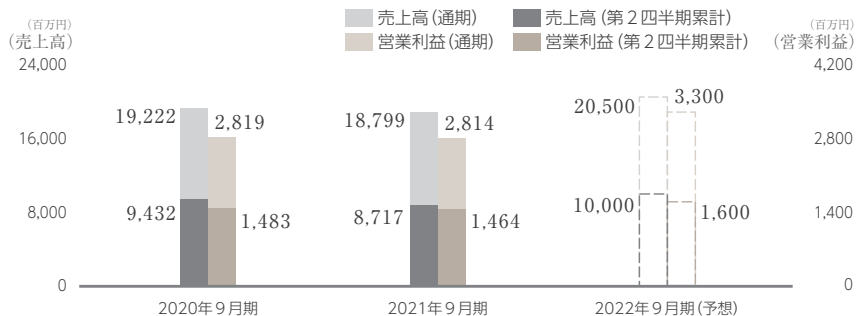
売上高構成比

18,799 百万円……2021年9月期 売上高

溶接機器  
関連事業

平面研磨装置関連事業

41.3%



平面研磨装置関連事業につきましては、半導体メモリー等の需要量が高水準で推移し、取引先であるエレクトロニクス関連素材においても堅調な生産活動や設備投資が続きました。このような環境の下、当事業として先端要求に適合した製品の拡販を図ったものの、業績は前期を下回りました。

この結果、当事業の売上高は187億99百万円(前期比2.2%減)、同営業利益は28億14百万円(前期比0.2%減)となりました。

## トピックス

### 平面研磨装置関連事業／ CIOEに出展

当社グループは、2021年9月、深セン(中国)で開催されたオプトエレクトロニクス関連の展示会「CIOE」にて、精密研磨装置などを紹介し、化合物・酸化物基板やガラス基板をはじめ、多様なアプリケーションに向けた最新製品を提案しました。また、加工対象に合わせたソリューションについて、最適な装置・消耗副資材の組み合わせと共に紹介しました。

当社グループは、顧客ニーズを具現化する次世代装置など、高付加価値製品の開発に注力してまいります。



CIOE 2021

### 平面研磨装置関連事業／ EMOに出展

2021年10月、ミラノ(イタリア)で開催された工作機械の総合展示会「EMO MILANO」にて、精密金属部材向け研削装置などのプレゼンテーションを行い、セラミックスなどの硬質加工物に対する取組みを展示しました。また、当社グループの装置シリーズと各種消耗副資材による、効果的な製造プロセスについても紹介し、来場の方々から注目を集めました。

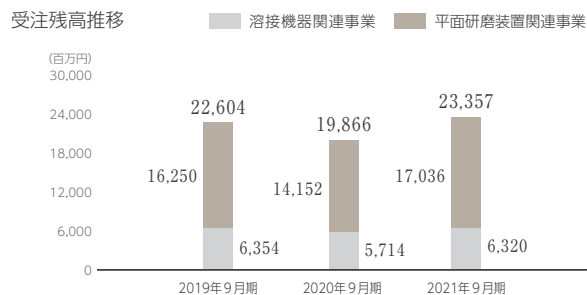
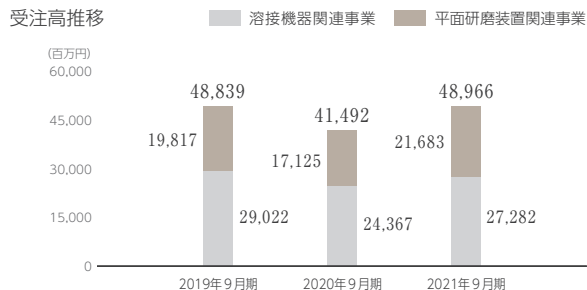
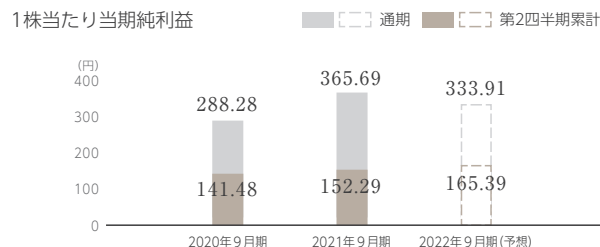
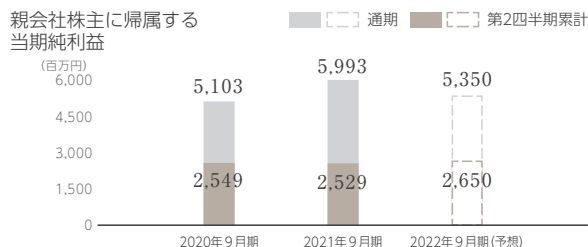
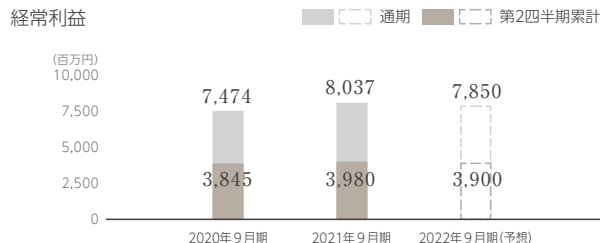
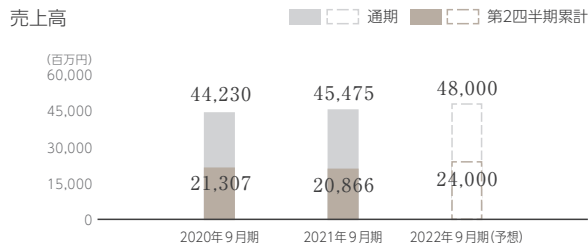
当社グループは、独創的な製品群の提供を通じ、常にお客様のご要望にお応えしてまいります。



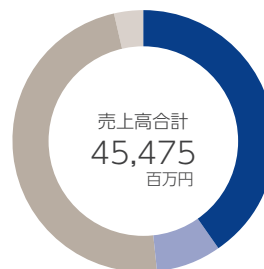
EMO MILANO 2021

# 主要経営指標の推移

詳細情報は当社IRサイトをご覧ください。 <http://www.obara-g.com/jp/ir/library/index.html>



### 地域別売上高構成比



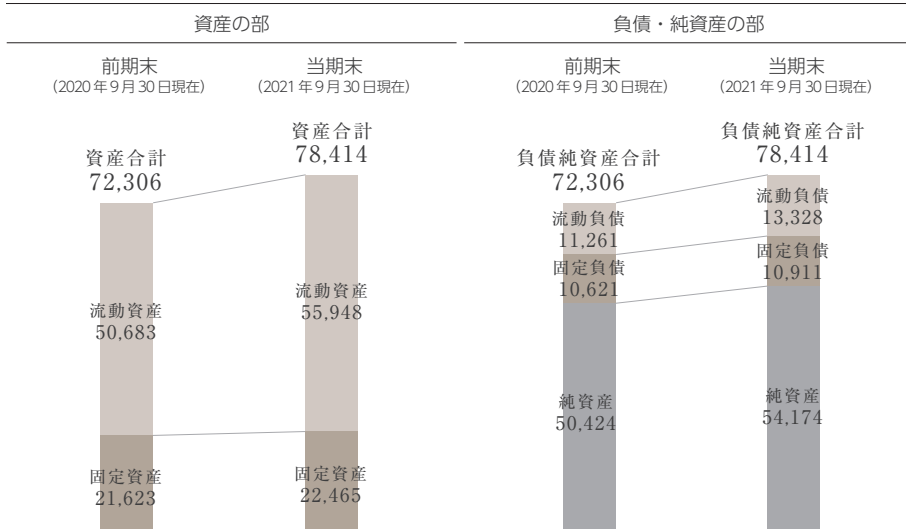
- 日本 ..... 40.4%
- 米州 ..... 8.0%
- アジア・パシフィック ..... 48.2%
- その他 ..... 3.4%

(注) 売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。



資産・負債・純資産の状況

(単位：百万円)



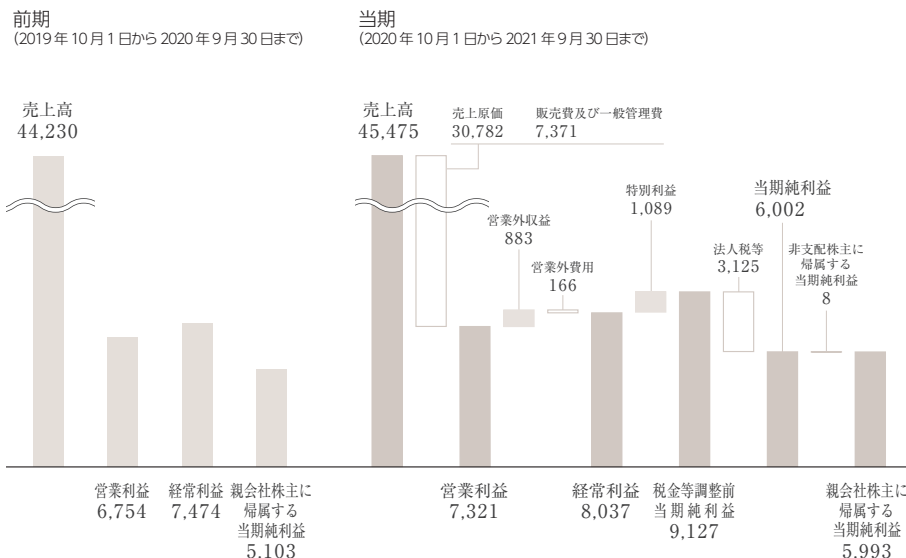
資産負債

point  
1

総資産は784億14百万円と、前期末に比べて61億7百万円増加しました。土地が1億8百万円、のれんが1億20百万円減少した一方、現金及び預金が53億68百万円、建物及び構築物(純額)が5億50百万円、投資有価証券が1億87百万円、長期預金が1億82百万円増加したことなどによります。  
負債は242億40百万円と、前期末に比べて23億57百万円増加しました。長期借入金が1億49百万円減少した一方、支払手形及び買掛金が8億81百万円、前受金が8億95百万円、繰延税金負債が4億15百万円増加したことなどによります。

損益の状況

(単位：百万円)



純資産

point  
2

純資産は541億74百万円と、前期末に比べて37億50百万円増加しました。自己株式の取得により35億58百万円減少した一方、為替が前期末より円安のため為替換算調整勘定が30億52百万円、親会社株主に帰属する当期純利益を59億93百万円計上したことなどにより利益剰余金が41億54百万円増加したことなどによります。

売上高・営業利益・  
経常利益・親会社株  
主に帰属する当期純利益

point  
3

連結売上高454億75百万円(前期比2.8%増)、営業利益73億21百万円(前期比8.4%増)、経常利益80億37百万円(前期比7.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は、連結子会社の持分譲渡に伴う特別利益9億80百万円を計上したことなどにより、59億93百万円(前期比17.4%増)となりました。

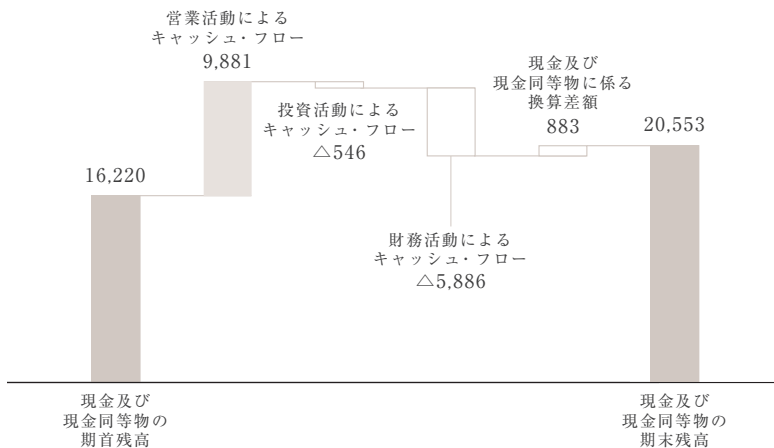


## 連結財務データ

### キャッシュ・フローの状況

当期  
(2020年10月1日から2021年9月30日まで)

(単位：百万円)



point  
4

### 営業活動による キャッシュ・フロー

営業活動により得られた資金は98億81百万円となりました。税金等調整前当期純利益が91億27百万円、減価償却費及びその他の償却費が12億8百万円、売上債権の減少額が16億13百万円となった一方、受取利息及び受取配当金が5億4百万円、関係会社出資金売却益が9億80百万円、法人税等の支払額が25億17百万円発生したことなどによります。

point  
5

### 投資活動による キャッシュ・フロー

投資活動により支出した資金は5億46百万円となりました。有形固定資産の売却による収入が3億23百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入が1億33百万円、連結の範囲の変更を伴う関係会社出資金の売却による収入が7億99百万円となった一方、長期預金の預入による支出が3億15百万円、有形固定資産の取得による支出が15億35百万円発生したことなどによります。

point  
6

### 財務活動による キャッシュ・フロー

財務活動により支出した資金は58億86百万円となりました。自己株式の取得による支出が36億17百万円、配当金の支払額が18億37百万円発生したことなどによります。

15

## 会社情報

(2021年9月30日現在)

### 会社概要

商号	OBARA GROUP 株式会社
設立	1958年12月
資本金	19億25百万円
従業員数	単体：19名(連結1,704名)
本社所在地	神奈川県大和市中央林間 3-2-10 046-271-2111(代表)
主な事業	持株会社として、グループ全体の経営戦略の策定・ 推進、グループ経営の監査、その他経営管理
ウェブサイト	<a href="http://www.obara-g.com/">http://www.obara-g.com/</a>

## 役員

取締役社長	小原 康嗣
取締役	小林 憲史
取締役	山下 光久
社外取締役	大西 倫雄*
社外取締役	牧野 宏司*
常勤監査役	高井 清
社外監査役	須山 正志*
社外監査役	高橋 昌子*

\* 証券取引所が定める独立役員として届出を行っております。

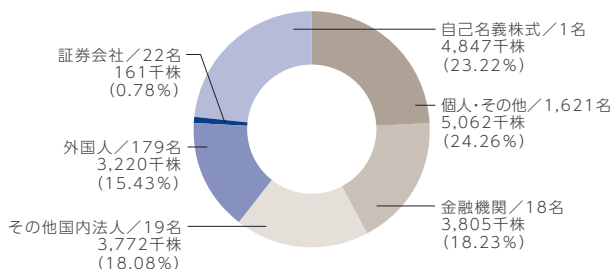
16

## 株式情報 (2021年9月30日現在)

### 株式状況

発行可能株式総数	38,000,000株
発行済株式総数	20,869,380株
単元株式数	100株
株主数	1,860名

### 株主分布状況



### 株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月
基準日	定時株主総会の議決権 毎年9月30日 期末配当 毎年9月30日 第2四半期末配当 毎年3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。

株主名簿管理人	〒100-8233 東京都千代田区丸の内1-4-1 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内1-4-1 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱所 (郵便物送付先 お問い合わせ先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉2-8-4 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-782-031 (フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国各本支店

### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社馬込興産	3,703	23.11
小原 康嗣	2,571	16.04
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,596	9.96
株式会社日本カストディ銀行 (信託口9)	778	4.86
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	754	4.71
JP MORGAN CHASE BANK 385632	646	4.03
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 381572	559	3.49
小原 範子	304	1.90
株式会社三菱UFJ銀行	300	1.87
JP MORGAN CHASE BANK 380072	235	1.47

(注) 1. 上記のほか、自己株式4,847千株を保有しております。  
2. 持株比率は、自己株式4,847千株を控除して計算しております。  
3. 小原康嗣の持株数は自身の管理分株数1,084千株を加えて表示しております。

公告方法	当公司公告につきましては、下記ウェブサイトに掲載いたします。 <a href="http://www.obara-g.com/">http://www.obara-g.com/</a> 但し、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に公告を掲載いたします。
------	--

### 年間IRスケジュール

